

成 果 報 告 書

NPO 法人都留環境フォーラム

■市民活動補助金申請の目的

当法人は、2010年の設立より、「持続可能で豊かな暮らしのあるまちづくり」、「文化の継承と新たな提案」、「地域の自立」というコンセプトを掲げ、活動を行ってきました。その中で、持続可能な暮らしの一環として、農業や化学肥料を使わず、家畜由来の有機肥料を使用した農業に取り組み、さらに2014年9月より農耕馬を飼いはじめ、農業や暮らしに馬の畜力を利用することに挑戦しています。

また、2013年より、私たちが取り組んできた「持続可能な暮らし」を、より多くの人に伝えるための手段として、農業や暮らしをテーマにした体験イベントを定期的に実施してきました。今年度は年間15回実施し、参加者の多くは、東京や神奈川などの都市部に住んでいる方でした。体験イベントの実施から、農業や持続可能な暮らしに興味を持ち、これからの生き方や暮らし方を変えたいと考えている方が多いことを実感しました。そして、イベントの参加者が、その後も定期的に都留市に通っていたり、少数ではありますが都留市への移住につながったり、移住・定住に対しても一定の効果があることもわかりました。

2000年以降、人口の減少が続いている都留市において、移住者を増やすことは長期的に見て大きな意味があると考えます。そこで、移住希望者向けのイベントの実施や、移住・定住に関するニーズの調査、持続可能な暮らしの先進地事例の視察を通じ、移住者・定住者の増加につながるような提案を都留市に対して行うことを目的とします。

■活動内容

1. 移住希望者向けイベント『移住いっぽ』の実施

都会から移住をしたいと思っている人、田舎暮らしに興味のある人などを対象に、他の地域から都留へ移住した方のお宅訪問や農業体験、移住者や地元の方との交流会、都留市の移住者向け情報提供などを行う、1泊2日のイベントを実施します。

2. アンケート調査の実施

『移住いっぽ』の参加者に対して、アンケート調査を実施します。移住希望者のニーズと、移住に対する意識を把握するとともに、『移住いっぽ』で伺った移住者の方々のお話をまとめ、今後の移住を促進するための企画や、都留市への提案へとつなげる材料とします。

3. 事例視察

「持続可能な暮らし」の一環として、馬をはじめとする畜力を取り入れた暮らしや技術の継承や、それを活かした地域おこしの取り組みの先行事例の視察を行います。視察で得たものを、今後提供する新しいプログラムやイベントなどに反映し、都留市への提案へとつなげます。

1. 移住希望者向けイベント『移住いっぽ』の実施

■イベント名 『移住いっぽ～都留の「暮らし」を訪ねる2日間～』

■目的 都会から移住をしたいと思っている人、田舎暮らしに興味のある人などを対象に、1泊2日のイベント、『移住いっぽ～都留の「暮らし」を訪ねる2日間～』を開催しました。

このイベントは、他の地域から都留市に移住した方たちの暮らしの中にお邪魔させていただいて、その暮らしぶりを見学したり、移住を考えたきっかけや都留に決めた経緯、移住後の仕事など、いろいろなお話を伺うことで、参加者が都留で暮らすことや、移住に対する具体的なイメージを掴めたり、不安や疑問が解消されたり、移住に向けての次の行動へとつながる「一歩」となることを目的としています。また、イベント後も都留市に通うきっかけとなったり、ゆくゆくは都留市への移住につながることを長期的な目標としています。

■日程 2015年9月26日（土）～27日（日） 1泊2日

■場所 都留市内各所（平栗、大幡など）

■参加者 14名

大人10名、子ども4名 / 男性8名、女性6名

現在住んでいる地域 / 東京都：7名、神奈川県：3名、茨城県：1名、千葉県：1名、静岡県：2名

■協力者 井桁修平さん、梅崎奈津子さん、加藤美里さん、田澤安曇さん、田島千絵子さん、寺岡比呂子さん、新津裕さん、羽野幸さん、満永悦子さん、安田圭一さん、安田とよさん、山田恭嗣さん、山田浩子さん、山野辺智子さん、山本良成さん

都留市産業課／秋山英一郎さん、横井大樹さん （五十音順）

■広報先

<チラシ配布協力>

- ・山梨県桂川ウェルネスパーク（大月市）
- ・NPO 法人エコツーリズムセンター（東京／西日暮里）
- ・ふるさと暮らし情報センター（東京／有楽町）
- ・カフェスロー（東京／国分寺市）
- ・公益社団法人日本環境教育フォーラム
（機関誌「地球のこども」に同封していただいた） ほか

<メールマガジン・メーリングリストなど>

- ・NPO 法人エコツーリズムセンター／メルマガ（週1回発行）
- ・IP メール

<web サイト>

- ・認定NPO 法人ふるさと回帰支援センター／イベント情報
- ・NPO 法人都留環境フォーラム／お知らせ、Facebook



10:00

かとうさんち集合（加藤大吾自宅／平栗）

自己紹介・イベント全体のアナウンス

1泊2日の『移住いっぽ』がはじまりました。

まずは、スタッフと参加者全員の自己紹介。お名前やどこから来たのか、今回は何を楽しみに参加したのかをお話していただきました。参加者の方は30代、40代の方が多く、家族で参加してくださった方もいて、和やかにスタートしました。



かとうさんちの見学

最初のプログラムは、『かとうさんちの見学』です。「かとうさんち」は、当法人の代表・加藤大吾の自宅です。10年前に都留に家族で移住して、家をセルフビルドし、お米や野菜を育て、ニワトリや羊などの家畜とともに暮らしている「かとうさんち」の、暮らしぶりを見学しました。ニワトリ小屋の仕組みや、小さな菜園の様子、また当法人で飼っている馬と馬小屋などを見学し、現在どのように暮らしているのかを参加者に体感していただきました。



12:15

お昼ごはん

加藤美里さんに美味しいお昼ごはんを作っていただきました。会話ははずみ、だんだんと参加者の皆さんも緊張がほぐれてきました。お昼ごはんの後は、近くの畑まで歩いて移動しました。歩きながら、参加者の方から「ここでの生活には車は必要ですか？」などいろいろな質問を受けました。



13:20

田んぼで稲刈り（厚原）

移住先で農業をはじめするための紙芝居

午後は、厚原にある田んぼで、稲刈りを行いました。この農作業体験は、移住とともにお米づくりや畑をはじめたいと思っている方が多いので、少しでも農作業の雰囲気や畑の面積などを実感していただければという思いで実施しました。参加者の方々は、鎌で稲の根元を刈り、濡らしたワラで束ね、はざ掛けの作業を体験。今回初めて稲刈りをした方もいて、稲を刈るときの感触を楽しんだり、

束ねるときのコツを試行錯誤したりしていました。

また、畑や田んぼをはじめたい方のために、どうやったら田んぼや畑を借りられるのか？どのくらいの面積で一年分のお米が穫れるのか？など、農業をはじめめるための情報を紙芝居で紹介しました。移住をしたら畑をはじめたいという方もいて、じっくりと聞き入っていました。



15 : 30

マイクロバスにて都留市内案内（城山公園、太郎・次郎滝など）

農作業で体を動かしたあとは、マイクロバスにて都留市内をまわりながら、どんな歴史や自然があるのか、どんな町並みなのかを紹介しました。案内をしたのは、都留の町が一望でき、また歴史もある城山公園と、水が豊かな都留と富士山の湧き水を象徴する、十日市場・夏狩湧水群の太郎・次郎滝です。移動している最中も、牛石遺跡や八朔祭、都留文科大学、水路のことなどを紹介しました。民家のすぐ近くにある太郎滝・次郎滝には参加者の方も驚いていて、「すごく良い場所」とおっしゃっていました。

17 : 00

月待ちの湯へ

市内案内の最後として、「芭蕉 月待ちの湯」へ。都留の温泉をゆっくりと堪能していただきました。

18 : 30

地元の方、移住した方との交流会・夕食（羽野宅／大幡）

参加者と地元の方、また都留に移住した方々、約40名に集まっていただき、大幡の羽野幸さん方で夕食を食べながら交流会を行いました。その家の大家さんである安田圭一さんにお話を伺ったり、また移住をした森林組合の職員・田澤安曇さんや新津裕さん、ご家族で移住された山野辺智子さん、専業農家の羽野幸さんなどにどういう経緯で都留に移住してきたのか、移住して大変だったこと、自分が大切にしていることなどを簡単に話していただきました。印象に残ったのは、羽野幸さんの「お邪魔しているという気持ちで農業も暮らしもしている」という言葉。参加者も真剣に耳を傾けていました。



21 : 00

かとうさんちログハウスと羽野宅に分かれて泊まり

参加者は、かとうさんちと羽野宅に分かれて泊まりました。これで、1日目は無事に終了しました。

7:00

起床／朝ごはん

『移住いっぽ』2日目が始まりました。それぞれの家で朝ごはんをいただき、早速お宅訪問をスタートしました。

8:50

移住した方のお宅訪問① 山田家（鹿留）

移住した方のお宅訪問1軒目は、鹿留にある山田恭嗣さん・浩子さんご夫妻のご自宅です。山田恭嗣さんは、平日は千葉県浦安市で、浩子さんは大月市で働いており、平日は千葉で、週末は都留で過ごす「週末移住」というスタイルを取っています。現在住んでいるご自宅は、空き家バンクで見つけた、バーが付いているおもしろい物件。ひと通りお家を見学させていただいた後、その「Bar Rio」にてお話を伺いました。「移住して家の中にいても地域にはなじめません。Rioや田んぼ、畑、家づくりをしたことで、地域の人に声をかけてもらえるようになりました。」恭嗣さんはそうおっしゃいました。また、山田さんご夫妻は鹿留がとても好きで、「こんなにいいところ！」と言いつけることで、地域の人も変わってきたように感じたそうです。「自分たちが移住したからこの地域は良くなった、と言われるようにしたい。」その言葉がとても印象的でした。



10:00

移住した方のお宅訪問② 満永家（中央）

移住した方のお宅訪問2軒目は、家中川の側にある満永悦子さん・さくらちゃん親子のご自宅です。満永悦子さんは、都留にあるカフェのオーナーと知り合いで、移住する前から何度も都留に通われていました。「フリンジマーケット」というイベントにも関わり、そのときに会場のひとつになった空き家が今のご自宅です。そして最近、ご自宅をゲストハウスとして、海外からのお客さんも受け入れています。都留の「人」に魅かれて移住を決めた満永さんのご自宅の近くには、きっかけとなったカフェのオーナー家族も住まわっていて、「移住してまわりに知り合いが住んでいるのはとても強い」とおっしゃっていました。「これからもまたどこに流れて行くかはわからないけれど、家ができ帰る場所ができて自由になった」と満永さん。ゲストハウスとして利用したいという参加者もいて、満永さんの人柄ととてもすてきなお家に魅かれています方がたくさんいました。



移住者のお宅訪問③ 井桁・田島家（朝日馬場）

3軒目は、朝日馬場にある古民家で暮らしている、井桁修平さん・田島千絵子さんのご自宅です。まずは、お家を借りた際についてきた田んぼと畑を見せていただきました。そして手作りの栗のお菓子をいただきながら、おふたりのお話を伺いました。井桁さん、田島さんは移住をしてまだ1年未満。今住んでいる家と出会ったことで、都留への移住を決めたそうです。田島さんは、働きにでるのではなく、家や畑で得られるもので暮らしていきたいという想いがあり、手作りのスコーンや石けん、ジャムなどを販売しています。参加者の中にもお菓子を作って販売している方もいて、とても共感するところが多い様子でした。また、畑にすることで近所の方から声をかけてもらえたり、ブタを飼っていることで近所の小学生が見にきたり、エサとしていらぬ野菜を分けてもらえたり、畑やブタは地域に馴染むきっかけになっているそうです。



移住者のお宅訪問④ 梅崎家（羽根子）

お昼ごはん

4軒目は、羽根子にある梅崎さん一家のご自宅です。おいしいお昼ごはんも用意していただきました。今回お話を伺ったのは、梅崎奈津子さん。梅崎さんは東京から都留へとご家族で移住し、現在は「風と土の自然学校」をご家族で運営されています。「お金が価値観」だった東京での暮らしから、今の暮らしになるまでのいきさつや、移住先に求める条件をお話していただきました。その中には「公共交通機関を使い、自力でたどりつける」といった、ご自宅でイベントや講座をされている梅崎さんならではの条件もあり、「自分はどんなことが条件なんだろう？」と参加者が自分に問いかけるきっかけにもなりました。梅崎さんの「環境」+「自分」が暮らし方や生き方を決める、というお話が印象的で、「環境がどんなに良くても、自分がゼロだったら何も変わらないし、今東京に戻ったとしても、移住する前とは違う暮らしになる。」とおっしゃっていました。



都留市の移住希望者向け情報提供（都留市役所／秋山さん）

都留市役所の秋山英一郎さんに、都留市の移住者向けの補助金や空き家バンクの紹介など、お話ししていただきました。秋山さん自身も、東京の大学へ進学し就職した後、都留に戻ってきたそうです。参加者の方からも、いろいろな質問をいただきました。また、子育て支援の情報として「はねここ」や「宝の山プレーパーク」など、市民が行っている活動もご紹介しました。



すべてのお話を聞き終えたあと、『移住いっぽ』全体のふりかえりの時間を設けました。2日間で得たものや気づきをふりかえりながら言葉にしてもらうことで、自分の考えが整理できたり、また他の人の言葉を聞くことで新しい発見があるのではと思い、実施しました。

まずはひとりずつ、2日間の感想を話していただきました。たくさんの方にお話を伺い、そしていろいろな情報を受け取って、まだ整理できていないという方もいましたが、自分の移住に対する気持ちが変わってきた、移住された方の話を聞いて二拠点移住もありだと思ったなど、具体的にイメージできたという方もいました。そして2日間で得たことを踏まえて、今後移住に向けてどんなことをやっていきたいかを、ひとりずつ書いていただきました。中には、「毎日土にふれて自然の中で心地よく暮らせる場所に住む」という、とても具体的なことを言葉にされている方もいました。最後に参加者のみなさんと記念撮影をして、『移住いっぽ』は無事に終了しました。

参加者のみなさま、2日間お疲れさまでした！そして、ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました！

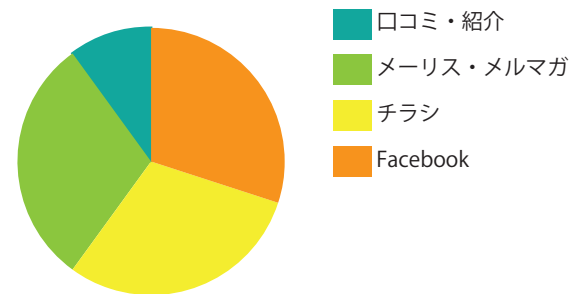


■参加者の感想（アンケート結果）

アンケート回答数：10

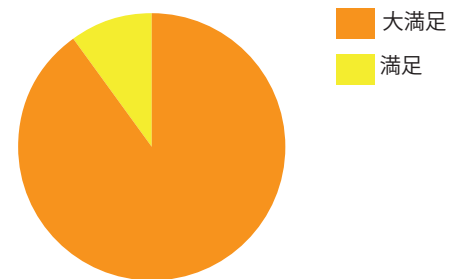
□どこでこのイベントを知りましたか？

- ・ 口コミ、紹介／1 ・ Facebook／3
- ・ チラシ／3（詳細：桂川ウェルネスパーク／1、イベント配布／2）
- ・ メールिंगリスト、メルマガ／3（詳細：IP-mai／2）
- ・ web サイト／0 ・ その他／0



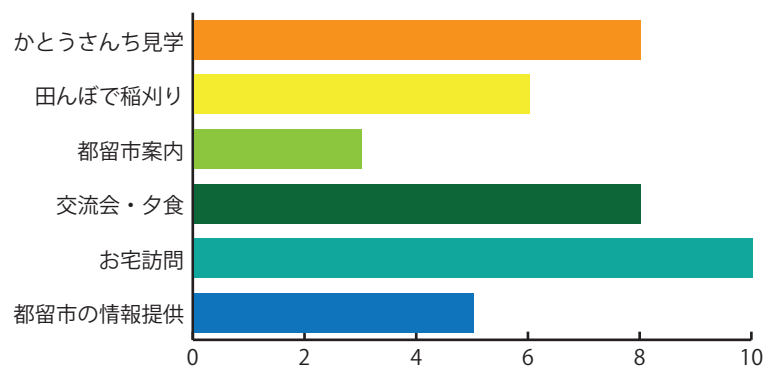
□「移住いっぽ」の満足度はどのくらいですか？

- ・ 大満足／9 ・ 満足／1 ・ 可もなく不可もなく／0
- ・ 不満／0 ・ 大不満／0



□おもしろかった・役に立ったプログラムはどれですか？（複数回答可）

- ・ かとうさんちの見学／8
- ・ 田んぼで稲刈り／6
- ・ マイクロバスにて都留市案内／3
- ・ 地元の方、移住した方との交流会・夕食／8
- ・ 移住した方のお宅訪問／10
- ・ 都留市の移住希望者向け情報提供／5



□感想を自由に書いてください。

- ・ たまたまこのイベントを見て、それ程の興味があつたのではなかったものの、すごく楽しかった。都留の方と交流できたことが楽しかった。(30代)
- ・ 次のいっぽを考えるのにとっても良い機会になりました。2日間本当にありがとうございました。他にはなかなかない企画で、とても考えさせられるイベントでした。ごはんは本当に！！！！おいしかったです！
「これをしたい」→「移住したい」ではなく、私の場合、「移住したい」が先行しすぎていると改めて思いました。方法や自分の気持ちなどもう一度よく見直して、ここちよい暮らしを実現できるように、すこしずつ行動していきたいと思います。(40代／女性)
- ・ イベント、情報もりだくさんで、あふれ気味ですが、他の移住者セミナー等にはない、より現実的な意見やアドバイスをもらえて、より具体的にイメージしやすく、とても良い企画だと思います。二拠点移住もありなのかな…と思いました。(30代／男性)
- ・ 皆さんのお宅や今在るきっかけ、流れなどのお話を聞いたのはとても良かったです。皆、それぞれのライフスタイル、バックグラウンドがあるのがわかり、決まりきったことはないということを再認識できました。自分がどうしたいのか、何が合っているのかをこの2日間でいろんな想いが去来しました。他の参加者さんの思いを聞いたのも視野が広がりありがたかったです。このようなワークショップはそうないと思うので、ぜひもっと他の人たちにも広がるといいなあーと思いました。どうもありがとうございました。(40代／女性)

- 具体的なお話を、移住者の方々から聞いて良かったです。自分にはそこまでの覚悟はないかなと。(40代／男性)
- 自然の中での暮らしができる場所へ引っ越したいと思っていたので、とても良いタイミングで来れました。実際にお話を聞いて、イメージがふくらみました。あたたかいおもてなしに感謝しています。ごはんもおやつもとても美味しくココロもカラダも満たされています。また遊びにきます。(30代／女性)
- お宅訪問がとても参考になりました。どこのお宅も食べ物がとても美味しかったので、良かったです。(30代／男性)
- とても充実した内容で、しかも愛情深く対応してくださるお姿に感動・感謝しております。楽しかったです。自然の多いところすごしていきたいと思います。スタッフの皆様、大変おつかれになられたと思います。大変感謝しております。ありがとうございました。(40代／女性)
- いろいろな方と出会えたことも良い経験になりました。子どもも参加できるイベントで良かったです。料理がおいしかったです。(40代／男性)
- 素晴らしい企画に感動しました。これを大切に、感謝を忘れず、移住一歩進んで行こうと思います。(40代／女性)



■『移住いっぽ』 ふりかえり

□「お宅訪問」の効果

当日の様子やアンケートの結果から、『移住いっぽ』に対する参加者の満足度は非常に高いものでした。今回のイベントを通して、移住を考えている参加者の知りたいこと、見たいものを提供できたことが満足度の高さにつながったのではないかと考えます。プログラムの中でも特に「移住した方のお宅訪問」への満足度が高く、アンケートでは参加者全員が「おもしろかった・役に立ったプログラム」と答えています。これは、移住した方の率直な言葉が聞ける場であったこと、またその方の家を訪ねることで、どのような暮らしをしているのかを体感的に受け取れたことが、大きな理由なのではないかと考えます。よくある移住希望者セミナーやイベントのようにどこかの会場に移住者を呼び、講演していただくのではなく、暮らしの中にお邪魔することで、参加者がより自分自身が移住した後の暮らしや生き方をイメージしやすくなったのではと考えています。

□「都留を伝える」という課題

対照的に「マイクロバスにて都留市案内」は、満足度は高くありませんでした。都留市は、「自然」「文化」「歴史」「暮らし」「人」が揃っている町なので、この都留市案内では、自然や文化、歴史を伝えるための場所を選定しました。しかし、近世の都留を象徴する城山公園は、歩く距離が長く、農作業の後だったこともあり、都留の歴史以上に「疲れた」という印象に残ってしまったのではないかと考えます。都留市を一望するのであれば他の場所もありますし、歴史を伝えるためには、例えば谷村大堰と家中川・寺川・中川の用水路や、八朔祭の山車など、いろいろな場所・モノがあるので、伝えたいことや季節・時間帯・参加者の年齢層に合わせた選択が、今回は不十分だったと言えます。太郎・次郎滝に関しては見応えも抜群で、都留の特徴でもある「水」が生活にとっても近いところにあることを伝える場所としては、十日市場・夏狩湧水群はとても有効であると感じました。都留市で移住希望者向けのイベントや取り組みを行う場合、都留市の紹介は不可欠なものです。都留を伝えるために、どこを案内するのか、検討を重ねる必要があると感じました。

□今後に向けての提案

今回は、他の地域から都留へ移住した方々を中心に、お話を聞かせていただきましたが、今後は都留で生まれ育った方にもご協力いただき、それぞれの地域についてや、どのような暮らしをしているのかをお話いただく機会を持てればと考えています。そうすることで、より都留のことが参加者へと伝わり、また実際に移住をする際に地域に知り合いがいるというのはとても心強いことだと思いますので、そういったつながり作りにもなればと思っています。

□さいごに

今回のイベントは、都留市に移住してもらうことは大きな目標ではありますが、それだけを目的とするのではなく、参加者自身が今後どのように暮らしていきたいかを考えることに重点を置いて、プログラムを組み立てていきました。「是が非でもここに移住してほしい」という主催者側の姿勢は、参加者にとってもプレッシャーになりますし、移住は人生の舵をきる大きな一歩であるため、地域やその土地の人との相性、移住後の仕事、住む場所、医療や学校教育など、さまざまなハードルを超えていく必要があります。そのため、一回の移住促進イベントで、即移住につながることは非常に難しいということも改めて実感しました。ただ、参加者にとって移住を検討する先のひとつに都留市が含まれること、イベント後も定期的に都留に通ってもらうきっかけになることには、充分につなげられます。実際に、参加者のうち何名かは、イベント後も都留へと足を運んでくださっています。そのことから、移住希望者向けのアプローチ方法として、今回の『移住いっぽ』のようなイベントは有効であると言えます。

今回のイベントは移住者のみなさま、地域の方々など、たくさんの方にご協力いただき、実施することができました。最後になりましたが、ご協力いただいたみなさまに、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

2. アンケート調査の実施

『移住いっぽ』の参加者に対して、移住に関するアンケートを実施しました。移住希望者のニーズと、移住に対する意識を把握し、今後の移住を促進するための材料とします。また、『移住いっぽ』全体を通して、移住した方のお話をまとめ、今後の企画や、都留市への提案へとつなげます。

アンケート回答数：10

■移住に向けて、その地域のどんな情報を事前に知りたいと思いますか？（自由記述）

- ・農だけで生きていけるのか？（40代／男性）
- ・仕事内容、勤務地。都留に暮らしながら出稼ぎに行っている人も多いのかな？と想像しました（30代／男性）
- ・地域別の環境（受け入れに対するハードルの高さとか、文化とか）（40代／女性）
- ・実際に移住している人の情報（仕事・年代・家族構成など）（40代／女性）
- ・物件情報（シェアハウスのメンバー募集も）（30代）
- ・土地の人々の特徴（40代／女性）
- ・土、水等の汚染の有無（40代／女性）
- ・前に住んでいた人々の情報（40代／女性）
- ・地域性。今回のイベントでは話を聞くことができて良かったです。（40代／男性）
- ・田畑のある住宅について（40代／女性）
- ・水、土（30代／女性）

■移住する先を決めるにあたり、どんなことを重視しますか？（自由記述）

- ・のんびり生きていけるのか？時間・空間が大きいこと。（40代／男性）
- ・教育（学校）環境、どんな仕事があるか、土地の安さ（30代／男性）
- ・人間関係（今回のイベントで強く感じました）（40代／女性）
- ・仕事とお金の折り合い（40代／女性）
- ・美しいところ、きれいなところ（40代／女性）
- ・交通機関（高校までの子どもの通学）（40代／男性）
- ・医療機関（40代／男性）
- ・田畑が近くにあるかどうか（40代／女性）
- ・水がきれいなところ（30代／男性）
- ・人、水、土（30代／女性）



■移住された方のお話しや暮らしを見学して、移住に対して印象が変わったことはありますか？（自由記述）

- ・みんなすごく目的意識があるなあ。それでも稼ぐのが大変とは…。（40代／男性）
- ・強烈な目的意識を持った人だけが移住を成し遂げているわけではない、ということを知り、印象が変わりました。（30代／男性）
- ・“移住”と言っても、人によりいろいろだなと感じました。（40代／女性）
- ・移住したい気持ちがはっきりしてきた。（40代／女性）
- ・身近に感じることができました。私にもできるかも。※まわりの方の協力があれば！！（40代／男性）
- ・具体的に考えが深まりました（40代／女性）
- ・今回、いろいろな人を見て移住の仕方は人それぞれだと思うようになりました（30代／男性）
- ・自給力を高めていきたいと思った。（30代／女性）

■移住を促進するために必要なこと

□地域の特徴

「地域のどんな情報を事前に知りたいと思いますか？」という問いに対して、「地域の特徴」と答えている方が多くいらっしゃいました。同じ都留市の中であっても、地域によって性格は異なります。移住先を決めるにあたり、住む地域の人や文化、行事、土地の様子（田畑はあるのか、住宅地）、自然環境などの特徴はとても重要な情報になります。移住へとつなげるためには、都留市の全体像を紹介すると同時に、集落単位で地域の特徴を紹介することも、大切な要素になるのではと考えました。さらに、移住をする際にその地域に誰か少しでも知り合いがいるというのは心強いものです。移住を提案する側として、地域の人を紹介し、知り合うきっかけを作ることも大切な役割であると考えます。

□住まいについて

当然ながら、具体的に住む家が決まらないことには移住にはつながらないため、物件の情報や、土地や家賃の価格なども必要な情報のひとつです。また移住希望の方は、古民家を希望する場合も多く、不動産屋では希望物件と出会えず、空き家バンクに情報が掲載されるタイミングとうまくあわなければ、地域に何のつてもない状態での家探しはとても困難になります。逆に、都留に移住すると決めていたわけではないけれど、とても良い家と出会ったので、移住を決めたという方もいました。他にも週末に都留市に滞在しながら、時間をかけて家を探したという方もいらっしゃいました。その方は、ただ滞在するのではなく、泊まらせていただいたお家の方に検討している地域のことや都留のことを教えていただいたそうです。その時間が移住する地域や家を決めるのにとっても役立ったとのことでした。家はその土地で暮らしていく中で、基盤となる部分です。良い家と出会うために、都留市内のゲストハウスやシェアハウスに滞在しながら探すというのもとても有効であると考えます。

□仕事とお金

住まいとともに、移住を決める際の大きな懸念事項となることは、仕事です。都留市に移住後、企業に勤めている方もいれば、個人事業主として独立している方もいます。また、都留で仕事が決まったから移住をしたという方もいますし、ハローワークにも都留市の求人情報がたくさん掲載されていますので、決して仕事がないという町ではなく、自分で事業を起こさなければ暮らしていくのは難しい、という町でもありません。それは、移住を決める際のプラスの要素になると考えます。ただ、都市部で働いていた頃と同じだけの給与を得ることは難しいかもしれませんし、移住する前と同じような仕事をするのに抵抗を感じる人もいるかもしれません。

□持続可能な暮らしの提案

当法人の代表・加藤だけでなく、今回お宅訪問でうかがった全員が、お米づくりや畑で野菜を作ったり、家畜を飼っていたり、お味噌などを自分で仕込んでいたり、薪ストーブを導入していたり、何らかのかたちで持続可能な暮らしを実践していました。このような暮らし方は、都市部から地方への移住を希望している方にとって魅力的なものもあり、移住をしたからこそ実現できるものでもあります。実際に「自然の中で暮らしたい」「田んぼや畑をやりたい」ということをおっしゃっていた参加者もいたことから、持続可能な暮らしは、移住をする大きな目的のひとつになっていると改めて感じました。

□子育て環境

子育て世代にとっては、教育の環境や子育て支援の取り組み、サークル、遊び場など、子どもに関わることも移住先を決める大切な要素になります。今回『移住いっぽ』に参加してくださった方のうち、4名(3家族)が子育て世代でした。学校や保育園・幼稚園の充実だけでなく、プレーパークなどの遊び場が近くにあったり、自主保育サークルがあったり、そういった活動への関心も非常に高く、市民の活動が都留市の大きな魅力となることを実感しました。

3. 事例視察

当法人では、一昨年より馬の力を利用した石油に頼らない持続可能な農業に取り組みはじめました。自分たちの手で食べ物やエネルギーを作り出す持続可能な暮らしは、移住希望者にとっても魅力のあるものだ、私たちは考えています。そこで、馬をはじめとする畜力を取り入れた持続可能な暮らしや技術の継承について、先行事例の視察を行うことで、今後、提供する新しいプログラムに反映したいと考えています。

■視察先 『第3回南会津馬搬フェス』

■目的 視察① 「現在も使われている馬搬技術」

人と馬で山から木材を運ぶ「馬搬（ばはん）」を現在に引き継ぐ馬方・見方師匠の技術を視察し、馬による持続可能な動力の可能性を探ります。

視察② 「馬搬イベントによる地域おこしと移住促進」

馬搬を中心としたイベントの企画・運営方法を見学し、馬を通じた地域おこしや移住の促進へとつながる事例を学びます。

■日程 2016年10月30日（金）～11月1日（日）

■会場 うさぎの森キャンプ場（福島県南会津郡南会津町糸沢西沢山 3692-20）

■内容 10月30日 C.W. ニコル氏講演会「馬搬は日本を変えるのか?!」

10月31日 馬搬デモンストレーション・体験会「日本式とヨーロッパ式搬出方法実演」
木工ワークショップ

11月1日 ホースマンシッププログラム、馬搬実施

■視察① 「現在も使われている馬搬技術」

馬搬は人と馬で山から木材を運ぶ、昔ながらの技術です。今回馬搬の実演をされたのは、岩手県遠野市の岩間敬さんとその師匠である、この道55年の見方芳勝さん。おふたりは、日本の昔ながらの馬搬技術を継承し、今も生業として馬搬を行っています。また、これと対比するようなかたちで、岩手県盛岡市の八丸牧場は、ヨーロッパで行われている馬搬技術を披露されました。どちらの技術も同時に見ることができ、非常に良い機会となりました。

馬搬は、丸太を山から運び出す技術として、日本では明治頃からはじまり、現在まで引き継がれてきました。当時、都留市でも馬搬は行われ、「ずるびき」や「どびき」と呼ばれ、馬を飼う人の冬の作業として行われていたそうです。現在は、その技術を継承されている方は日本では数名にまで減ってしまいました。一方、ヨーロッパでは林業の大型集約技術を持ちながらも、「Horse Logger」という人々が馬との作業を大切に守り続けています。効率性だけを求めたり、画一的な技術に偏ったりするのではなく、楽しみながら作業を行う文化を大切にしているようです。



会場の広場の隣にはコナラ林が広がっていました。コナラをチェーンソーで伐り倒し、その場で運び出せるサイズに玉切りします。今回、作業を行った馬は 1 トン以上の重さのある鞍馬（ばんば）で、直径 50cm 以上、長さ 4m ものコナラの木を、いとも簡単に運んでいきます。馬方は、声と手綱さばきで、馬に指示を出していきます。馬はこの指示をちゃんと受け取り、作業中は勝手に動いてしまうようなことはありません。馬が通る場所を確保し、馬の足に枝が刺さらないように配慮し、また馬と丸太の内輪差で樹木が引っかからないように考えながら作業を行っていました。最終日には、河原に落ちている丸太を崖から引き上げる作業を見学しました。馬が歩きやすいようにと、川に溜まっていた水の水位を低くしたり、丸太が少しでも滑りやすくなるように深く枝払いをしていたり、馬方の馬を思いやる気持ちにあふれている様子が見られました。

■視察② 「馬搬イベントによる地域おこしと移住促進」

イベントを運営する「NPO 法人みなみあいづ森林ネットワーク」は、地域の林業関係者で構成され、南会津地域の活性化に取り組んでいました。また、イベントの事務局や協力者は、主に地域の外から移住してきた方々が中心となり、移住者が地域の主要産業と地域おこしをつなげている様子が見られました。イベントでは、馬搬の他に、馬搬材を使った木工、木材アート、クロモジから抽出するアロマオイル作りの実演などが行われました。これらのプログラムも、都市部からの移住者が中心となって運営されていました。木材の新しい利用方法を生み出すことで地域に仕事が生まれ、それにより林業関連の産業にも効果があらわれていくことを期待していました。馬搬自体は、この地域の中で取り組んでいる人はいないのですが、馬方を呼ぶことでイベントを実施し、主要産業である林業が、川下の木材利用とつながっていくことを目指していました。そして、移住者と地域の協力により運営しているイベントのあり方として、とても参考になりました。



今回のイベントは、参加者数がそれほど多いわけではなく、参加者も地域の方というよりは遠方から馬搬を見に参加された方の方が多かったように感じました。移住を主なテーマにしたイベントではなかったとしても、興味を持って来てくれた人に地域のことを伝える手段になることを改めて感じました。

都留市でも、移住者の新しい視点を活かし、活動をはじめる人が増えています。移住者と地域が共に協働していくことで、地域が活性化するとともにさらに移住する人が増えていく、よい循環につながるのではないかと考えます。

市長への提言書

■移住・定住を促進するために

2000年以降、人口の減少が続いている都留市において、移住者を増やすことは長期的に見て大きな意味があると考えます。都留市は、有名な観光地ではなく、移住先としてブランド化している地域でもありません。だからこそ、「都留」という名前に魅かれて移住するのではなく、都留の「人」に魅かれたり、「文化」や「環境」に魅かれたり、何度か通い人や地域とのつながりが生まれたことで移住を決めるなど、都留の内側を知った上で移住をする人が多いように感じます。もちろん、都留で仕事が決まったからという理由で移住をする人もいますが、その場合も働きざかりの30～50代で移住をしている人が多く、若い世代の移住者は地域にとっても活力となる可能性が高いと考えます。そこで、今後も都留市への移住・定住を促進し、より都留市が魅力的な町になるために、以下のことを提言します。

【持続可能な暮らしの提案】

□「持続可能な暮らし」を都留の魅力のひとつにする

都市部から地方への移住を考えている人の中には、ただ自然のあるところや田舎に住みたいというだけでなく、例えば畑や田んぼをはじめ、自分で食べ物を作ったり、古民家を自分の手で改修しながら暮らしたり、薪ストーブを導入したり、ニワトリやヤギなどの家畜を飼ったり、都市部ではなかなか実現できない「持続可能な暮らし」を実践したいと考えている人が数多くいます。現在、都留市に移住をして暮らしている人の中にも、そういった持続可能な暮らしの要素を取り入れている人は多く、また羽根子に住まわれている梅崎靖志さん・奈津子さんが実践されている「風と土の自然学校」は、「自然農と手づくり循環生活」講座を年間通して行っていますし、当法人でも「馬と耕す里暮らしワークショップ」や「大工仕事ワークショップ」などの暮らしをテーマにしたイベントを開催しています。さらに講座やイベントに通われていた方がその後都留へと移住をしている事例もあります。持続可能な暮らしを都留でも実践できること、すでにそうやって暮らしている人がいることなどを伝えることで、都留への移住を考えるきっかけになるのではと考えます。

□市民農園の充実

移住したばかりの地域とのつながりが薄い状態で、田んぼや畑を借りることはかなり難しく、また貸す側の地主にとっても知らない人に貸すのは不安があります。しかし、移住して田んぼや畑をまずはやってみたい、小さい面積でいいので初めてみたい、という方は多いため、その希望に応えられるような、市民農園の充実を提案します。都留市も戸沢に市民農園がありますが、例えば来年度オープン予定の道の駅の近くに市民農園を作ること、近くにトイレがある、休憩もできる、まわりの農家さんともつながれるなど、市民農園を利用しやすい条件が整います。「持続可能な暮らし」を実践しやすくする仕組みを整えることで、より魅力的な町になると考えます。

【移住者向けの補助制度の充実】

□空き家バンクの利用枠拡大

都留市でも運用されている空き家バンクは、空き家と住みたい人をつなぐとても良い制度です。ただ、現在のところ都留市外に在住の方のみに利用が制限されているため、これを移住後1～2年未満の方も利用できるようにすることを提案します。移住を決めた場合であっても、希望するような物件が見つからず、暫定的な住居で移住を開始するというケースもあります。そこで、移住後であっても数年間は空き家バンクを利用できるようにすることで、移住者にとってより使いやすい制度になります。

□滞在型の家探しに対する仕組み

例えば週末毎、都留に滞在しながら家を探したり、地域を見てまわったり、時間をかけて都留を知ってもらうことで、「住んでみたけれど想像と違っていた」というミスマッチが起こりにくくなります。また、都留市全体だけでなく、集落単位での地域を知ることとても重要だと考えます。そこで、市内のゲストハウスやシェアハウスなどに滞在しながら、より都留を知ってもらうための仕組みづくりが必要だと考えます。ただ宿泊施設に泊まるのではなく、泊まりながら話を聞けたり、交流ができると、実際に都留に移住した後もそのときのつながりを活かすことができます。そこで長期滞在（週末滞在）への補助や、長期滞在できる場所の案内などを行うことを提案します。

□家賃補助

I ターンの場合、移住と同時、また移住してすぐに家を購入する、土地を購入するというケースはめずらしく、賃貸物件への入居することがほとんどです。移住をして仕事が決まるまでの間や、移住をしてすぐは、収入面が不安定になったり、お金がかかることも多いため、例えば、移住後何年間は家賃の何%かまたは一律で補助をすることで、移住者にとっては非常に助かる仕組みになるのではと考えます。

□中古物件の改修費用の補助

現在も「都留市子育て世帯定住促進奨励制度」として、住宅などの取得費の一部を補助する仕組みはありますが、これを子育て世帯だけでなく、すべての移住者に摘要することを提案します。そして、中古物件は改修が必要な場合も多くあるため、そのための費用を補助する仕組みをより充実させることで、中古物件の利用促進や、空き家バンク利用の増加にもつながるのではと考えます。また、この改修・修繕の費用も、購入・賃貸のどちらにも摘要でき、市内の業者にお願いする場合だけでなく、自分たちで改修をする場合の材料費も対象にするなど、より広く使えるようにすることで、使いやすい制度になると考えます。